



参加者らと討論する（右から）木下、山中、森、辻の各氏＝11日、大阪市（2015年5月13日付しんぶん赤旗）

# 弁護士も黙ってられぬ

大阪弁護士会館で討論集会

大阪市の廃止・分割の是非を問う17日の住民投票を前に、市民の権利を守る弁護士が何もせず看過するわけにはいかないと11日、大阪弁護士会館で「大阪都」構想の問題点についての討論集会在が開かれました。弁護士有志による「都構想」を検討する弁護士会の会が主催しました。

呼びかけ人の一人の辻公雄弁護士が「こんなに重大なときに、弁護士が何も言わないというのはおかしい」とあいさつ。立命館大学の森裕之教授が講演した後、討論。討論には木下吉信自民党市議、市民団体の代表らが参加しました。

会場から「今回の住民投票は文書を出せる

## 「いとおいしいまち守らなあかん」

ということ、はがき運動をやるうと7800世帯に送った「反対の投票に行くように依頼者に電話で呼びかけている」などの取り組みが報告されました。

最後に森教授は「今回、大阪市の外で政治的取り引きがあり、こんなことになっていく。大阪は踏み台にされている。そのことに對する怒りをもっと持ってほしい」と強調。これを受けて日本共産党の山中智子市議は「こんなにとおいしいまちはない。橋下市長は東京のまねをしたいようにだけ、なんで東京のまねせなあかんねん。絶対に大阪市を守らなあかん」と最後まで奮闘する決意を述べました。